

2022年2月実績概要（メモ）

（2022. 3. 17）

定修実施状況の差が大きく、エチレン及び各誘導品の生産は、対前年で減少幅拡大品目が多い。

1. 生産動向

イ) エチレン 437,800トン

前月比 ▲13.7% (▲69,200トン)
 前年同月比 ▲9.9% (▲48,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲9.7%	—
定修要因等	▲2.2%	▲8.2%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲1.8%	▲1.7%
生産増減率	▲13.7%	▲9.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月94.1%* → 当月92.4% ← 前年同月93.9%
 定修プラント：前月1社1プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減少と定修規模差から、LDPE、HDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなど17品目全てがマイナスとなった。

前年比でも、定修規模差等から、LDPE、HDPE、EO、EG、BRなどの13品目がマイナス。PS、ベンゼン、キシレンなどの4品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の減少と上流クラッカーの定修影響や誘導品での定修規模の拡大からLDPE、HDPE、PPで大幅な減産となった。

前年比でも同様に定修規模の拡大を主因にLDPE、HDPE、PPでマイナス。PSのみはプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う行動制限の長期化に加え、月末からの原油及びナフサ価格の一段高も加わり、国内の生産活動及び消費マインドの持ち直しの動きに弱さが見られている。

汎用樹脂の出荷は、定修による生産減少に伴う出荷面での制約がある一方、在庫の放出もあり、HDPE、PP、PSはプラス、LDPEのみは微減となった。

前年比は、出荷玉のひっ迫もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、LDPEはフィルム分野、HDPEはパイプ分野他、PPは射出成形分野、押出成形分野で減少が見られた。また、PSは前年の出荷水準が2月としては、やや高めであったこともあり、FS分野、電機・工業用分野の減少をはじめほぼ全分野で前年を下回った。

ハ) 輸出

前月は中国のゼロコロナ政策に伴う消費減速や旧正月前の取引の停滞もあり大幅に輸出が減少した。これに対して当月は、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。

前年比は、昨年後半よりポリオレフィン3樹脂では輸出の減少傾向が続いてきたが、当月は、漸くLDPEが前年を上回ったほか、PP、PSでもプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PPで減少し、PSのみが増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPE、HDPE、PPで低下。PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、PPはほぼ適正、HDPE、PSはやや高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LDPE	▲22,000	3.4	3.2
HDPE	▲4,300	3.8	3.5
P P	▲16,400	3.4	3.2
P S	+4,200	2.1	2.1

以上

前月からの修正を*で付記